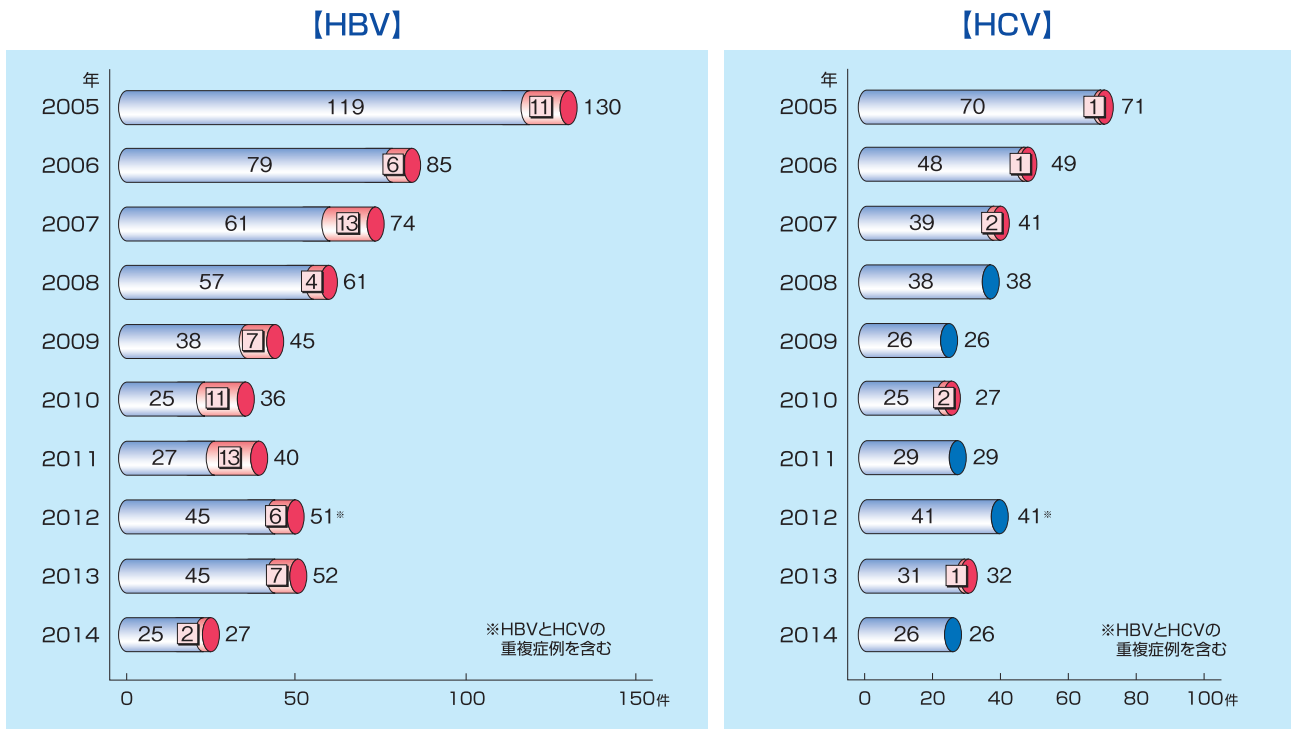




## 輸血用血液製剤との関連性が高いと考えられた感染症症例 -2014年-

輸血によるウイルス等の感染が疑われ、2014年に医療機関から赤十字血液センターに報告された症例（自発報告）及び献血後情報に基づく遡及調査を行った症例の中で、献血血液の保管検体等にウイルス核酸が検出され、輸血による感染が特定されたものは、HBV 2例、HEV 4例でした。

## 輸血による感染の疑いとして赤十字血液センターに報告された症例【HBV・HCV】 -2005年～2014年-



輸血による感染と特定されなかった症例(否定症例を含む)    輸血による感染と特定された症例

・2009年以降、輸血による感染と特定された症例に、劇症肝炎は起こっていない。

## 症例概要(献血血液の保管検体等にウイルス核酸等が検出され、輸血による感染と特定された症例) -2014年-

### 【HBV】

●自発報告：輸血によるウイルス感染の疑いとして医療機関から報告された症例

症例 No.	原疾患	輸血用血液製剤(採血年月)	年齢	性別	輸血前			輸血後		ALT	
					検査項目	検査結果	輸血までの期間	陽転項目	輸血からの期間	最高値(IU/L)	輸血からの期間
1	不安定狭心症	FFP-LR (2013.6)	60代	男	HBV-DNA・HBs抗原 HBs抗体・HBe抗体	陰性	1~2日	HBV-DNA	19週	1107	36週

●献血後情報：献血血液のスクリーニング検査の陽転化情報に基づく遡及調査により判明した症例

症例 No.	原疾患	輸血用血液製剤(採血年月)	年齢	性別	輸血前			輸血後		ALT	
					検査項目	検査結果	輸血までの期間	陽転項目	輸血からの期間	最高値(IU/L)	輸血からの期間
2	胃癌 アルツハイマー型 認知症	Ir-RCC-LR (2013.9)	90代	男	HBs抗原	陰性	220日	HBV-DNA	13週	◆	◆

◆ALTの上昇がない、または比較データがない症例

## 【HEV】

●自発報告:輸血によるウイルス感染の疑いとして医療機関から報告された症例

症例No.	原疾患	輸血用血液製剤(採血年月)	年齢	性別	輸血前			輸血後		ALT	
					検査項目	検査結果	輸血までの期間	陽転項目	輸血からの期間	最高値(IU/L)	輸血からの期間
1	バーキットリンパ腫	Ir-PC-LR(2011.11)	30代	女				HEV-RNA	126週	347	9週
2	原発性胆汁性肝硬変(肝移植)	FFP-LR(2012.3)	60代	女	HEV-RNA	陰性	3日	HEV-RNA IgG-HEV抗体	37週	315	3週
3	肝硬変、肝癌(肝移植)	Ir-PC-LR(2014.7)	40代	男	HEV-RNA IgM-HEV抗体 IgG-HEV抗体 IgA-HEV抗体	陰性	1日	HEV-RNA IgM-HEV抗体	12週	93	26週

●献血後情報:自発報告症例No.2の同時製造製剤を供給した医療機関から報告された症例

症例No.	原疾患	輸血用血液製剤(採血年月)	年齢	性別	輸血前			輸血後		ALT	
					検査項目	検査結果	輸血までの期間	陽転項目	輸血からの期間	最高値(IU/L)	輸血からの期間
4	骨髄異形成症候群	Ir-RCC-LR(2012.3)	80代	女	HEV-RNA IgM-HEV抗体 IgG-HEV抗体	陰性	0日	HEV-RNA IgM-HEV抗体 IgG-HEV抗体	10週	811	10週

## 輸血前の受血者検体保管と感染症検査の重要性

2014年に医療機関より報告された輸血後感染疑い症例のうち、医療機関と日赤の評価において輸血との因果関係が否定された症例は、HBVが5例(HBV報告症例の19%)、HCVが4例(HCV報告症例の15%)でした。

—内訳—

- ◆輸血前の患者検体にウイルス遺伝子が検出された症例：HBV 5例、HCV 1例
- ◆輸血後の患者検体のウイルス遺伝子及び血清学的検査が陰性の症例：HCV 3例

⇒輸血による感染を確認する手段として、輸血前の患者検体の検査が重要と考えられます。

## 核酸増幅検査(NAT)の実施状況【2004年8月～2015年5月】

献血血液(HBs抗原検査陰性、HBc抗体検査陰性、HCV抗体検査陰性、HIV-1及びHIV-2抗体検査陰性、ALT正常のもの)に対するNAT陽性数は次のとおりです。

期間	検査対象数	NAT陽性数(頻度)		
		HBV	HCV	HIV
2004年8月～2008年7月	18,514,278	334(約1/6万)	32(約1/58万)	11(約1/168万)
2008年8月 <sup>*1</sup> ～2012年8月	20,368,427	376(約1/5万)	16(約1/127万)	7(約1/291万)
2012年8月 <sup>*2</sup> ～2014年7月	9,927,699	68(約1/15万)	4(約1/248万)	1(約1/993万)
2014年8月 <sup>*3</sup> ～2015年5月	4,133,936	34(約1/12万)	0	0

※1: NAT試薬・機器変更 ※2: HBc抗体判定基準の変更 ※3: 個別NAT導入

輸血用血液製剤使用による副作用・感染症が疑われた場合は、直ちに赤十字血液センター医薬情報担当者までご連絡ください。また、原因究明のために、使用された製剤及び患者さんの検体(輸血前後)等の提供をお願いします。なお、使用された製剤及び患者さんの検体は「血液製剤等に係る遡及調査ガイドライン」を参照のうえ保存してください。

《発行元》

日本赤十字社 血液事業本部 学術情報課  
〒105-8521 東京都港区芝大門一丁目1番3号

\*お問い合わせは、最寄りの赤十字血液センター  
医薬情報担当者へお願いいたします。

平成27年4月 リニューアルしました!

日本赤十字社 医薬品情報

検索

製品情報・輸血情報等についてはこちら

